外国人と思いこみ

ごみ集積所での会話です。

「どうかしたんですか？」

「この近くにも、外国人が増えて、ごみ出しのルールを守ってくれなくて困っているのよ」

「どうして外国人が出したとわかるんですか？」

「夜も遅くまで騒いでるし、何をやるかわからないような外国人に決まっているでしょ！」

わたしたちは考えます

真の国際化に向けて―

23 区内には、平成 16 年 1 月 1 日現在、 外国人登録しているだけでも、約 30 万人の外国人が居住しています。

国際化ということがいわれて久しいですが、わたしたちが住んでいる街や商店などでも外国人と接することがごく普通になってきました。しかし、心の中は国際化しているでしょうか。「外国人風の 2 人組の男が強盗を働いた」等の新聞報道を目にしたりすると、最近、物騒な事件が多いけれど外国人の犯罪が増えているのではと感じたり、外国人は何を考えているか、何をするかわからないと思ったことはありませんか。

しかし、実際には外国人による犯罪は増えていません。こうした気持ちが、なんとなく外国人は怖い。何か悪い事をするのは外国人だという発想につながります。関東大震災の際、まったくのデマからたくさんの朝鮮人が虐殺されたことはよく知られた史実です。異質なものをできるだけ排除しようとするのは集団の特性だといいます。また、日本人は、均質文化嗜好が強く、皆同じという幻想をいだいているといわれます。しかし、それぞれ、違った存在なのが人間なのです。例えば、同じ親から生まれても、子ども一人ひとり性格も、好みも外観も異なります。わたしたちは、よく「日本人は○○だ」「外国人は○○だ」と十把一からげにいったりすることがありますが、こうした見方（ステレオタイプ）では、客観的事実がなかったり、あっても少数の事例で全体を判断し、決め付けてしまうことになりがちです。例えば、外国人Ａさんが一度ルールを知らなくて、あるいは知っていても無視して、ごみ出しの日でない日にごみを出したとします。その事実を知って、外国人全体を判断して、ルールを守らない人たちというレッテルを貼ってしまう。ステレオタイプの見方から偏見は生まれ差別につながります。